

国語

注 意

1. 問題は全部で26ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 日本文学科受験者は問題四も解答すること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章は、『童謡の百年』という本の序章の一部である。これを読んで後の問に答えよ。

本書は、今日私たちが「童謡」という言葉でとらえている一群の歌について、そのイメージがどのような経緯¹で形成されてきたのかを追跡的に探ろうとするものです。私たちの多くは、童謡を「日本人の心のふるさと」であり、また同時に「今まさに失われつつあるもの」であり「次世代に継承すべき文化財」であると考えています。しかし童謡は、いつの時代にも常に今日と同じようなものとして存在していたわけではありません。大正中期に近代的な童謡が成立してから今日までの約百年間に限っても、童謡という言葉に込められた理念や、またその名によって指示される楽曲の具体的内容は、時代の推移のなかで大きく変化しているのです。そこで本書では、過去の記録を掘り起こすことで童謡なるものが折々の社会でどのように受け止められ、語られ、あるいは消費されてきたのかを確認し、またそうした作業を通じて今日に至るまでの童謡イメージ²の変²過程を明らかにしたいと思います。

そんなことをして、いったい何になるのだ、という声が出てくるかもしれません。過去がどうであれ「今は今」なのだ、と。もちろん私もこの本のなかで「現代の童謡イメージは間違っている」などと主張したいわけではありません。現代を生きる私たちが、現代の流儀で童謡なるものを理解し消費することは、それ自体としてはごく自然なことです。しかしそれでも私は、過去を振り返りつつこれまでの童謡観を分析することには大きな意味があると考えます。

第一に、童謡に対する人々の認識がどのようなものであったのかを記録に留めることは、今日に連なる音楽文化の一側面を歴史的資料として未来に残すという意味で価値のある試みだと言えます。長い時間のなかで少しずつ形を変えてきた人々の「もの見方・考え方」は、しかしそれぞれの時代においてはごく常識的なものであった（あるいは今まさにそうである）がゆえに、わざわざ意識化される機会が少なく、放っておくとすぐに風化³してしまいがちです。そんな各時代の「当たり前」を、歴史の流れに完全に埋もれてしまう前に収集・整理しておくことは、誰かが取り組むべき大切な仕事だと言えます。

また第二に、そうした資料化の取り組みを通じて私たちは、社会学的に重要な「気付き」を得ることができます。それは、世の

中のさまざまな事象に対する私たちの認識が、実は今という時代の枠組みのなかでのみ通用する限定的なものでしかない、というポイントです。童謡に限らず、私たちはいつい自分たちの常識がいつの時代にも、また誰にでも通用する真理か何かのように思い込んでしまいがちです。しかし現代の常識とうまく整合しない過去の状況に目を向けることで、私たちは自らの常識が決して普遍的・不変的なものではないことを再認識できるのです。

そうした、自らの常識のもろさや不完全さに対する「気付き」は、自分自身やその社会を

がります。何気なく信じていた自分たちの

歩史的な立場から

なもの、原始的で愚かしいものとして嘲笑するのかもしれませんが、しかしよく考えてみれば、私たちが今この時代に共有してい

る常識も、将来的に変化しないという保証はどこにもないのです。これまで変化してきたものが、今後は一切変わらないなど

と、なぜ断言できるでしょう。ひよつとすると私たちは、現在の立場から過去を笑うのとまったく同じやり方で、未来の人たち

から「あの頃の人たちは馬鹿なことを考えていたんだな」と笑われてしまうのかもしれませんが、ならば、今を特別視することなく

過去と現在との相違を俯瞰的・客観的に見つめる視座を得ることは、私たちの社会をより深く考えていく上で非常に重要なこと

だと言えないでしょうか。

本書は以上のような問題意識に立ちながら童謡という森に踏み込んでいくわけですが、その際、具体的にどのような学問的スタンスに立って問題に取り組んでいくのかについても、ごく簡潔に述べておきたいと思えます。

本書は「時代や状況が変わっても童謡の本質は不変である」という考え方を否定する立場を取ります。「時代や状況」というのは、つまり人々が生きている社会に他なりません。そんな社会の変動から隔絶されたところに、自律的・絶対的な「童謡」なるものが存在しているわけではないのです。私たちが「童謡」と呼んでいるものの内実は、さまざまな主義主張や利害関係を持った関係者ら（作る人も、うたう人も、聴く人もそうです）が互いに衝突したり交渉したり協力したりするなかで、その都度形成され、あるいは変形されてきたものです。その意味で「童謡」は（またそれに限らずあらゆる音楽は）社会の中に埋め込まれている、と

言つてよいでしょう。本書が「童謡」と呼ばれている作品そのものを問題にするのではなく(もちろんそこにも目配りはしますがそれ以上に)当の作品が社会のなかでどう位置づけられ、語られ、消費されているのかに大きな注意を払う理由はここにあります。

実を言いますと、この「音楽を取り巻く社会の側に照準を当てる」戦略は、童謡に限らず近年の音楽研究における一種のトレンドです。人文科学のなかには「音楽学」という領域があるのですが、そこでは長らく、個々の音楽作品が自律的なものとして扱われる傾向がありました。しかし近年、そうした姿勢は次第に批判されるようになってきています。あらゆる音楽は、その本質をあらかじめ作品の内部に備えているのではなく、それが置かれたコンテキスト(文脈)のなかで、その都度意味を見出される、という考え方が主流になってきたのです。本書もそうした音楽研究の今日的潮流を下敷きにしています。つまり本書を通じて私たちが考えていくのは、「童謡とは何か」ではなく、むしろ、過去や現在の社会において「何が童謡だと考えられていた(いる)のか」という問題です。

もう一点、本書では特に過去の事象について議論する際、その材料として書籍・雑誌・新聞などの文章や録音物を中心に扱います。反面、当事者や関係者へのインタビューなどは、今回の本のなかで積極的に盛り込んでいません。

敢えてそのような方針を取ったことには、もちろん理由があります。あくまでも一般論ですが、過去の事柄に関しインタビューを通じて得られる「語り」は、発話者や聞き手がどれほど注意しても、それが語られる今の常識について引つ張られてしまいがちです。また、「語り」の内容は、それが発話者にとって重要な(思い入れのある、情熱を持って取り組んできた)事柄であればあるほど、意図せず美化されてしまう傾向にあるように思われます。もちろん、そうした無意識のバイアスを取り除きつつ「語り」の核を見極めるような技法はあるのでしようし、私自身、今後の課題としてそのような研究にも取り組んでいきたいと考えています。しかし本書では時期⁶ ショウソウと判断し、敢えてそれを見送りました。代わりに本書では、各時代の空気のかなで折々の常識に従つて書かれ、そして今日までひっそりと残されてきた資料たちに、⁷ 往時の状況を存分に語つてもらおうと考えています。

問一 傍線部1「経緯」とはどういう意味か。最適なものをおの①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **1**。

① 考え、意図

② ことのおこり、原因

③ いきさつ、事情

④ もくろみ、計算

⑤ やり方、方法

問二 傍線部2「変セン」の「セン」を漢字に直すと、どの字になるか。次の①～⑤から、その字を含む言葉を一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **2**。

① 激セン

② 直セン

③ セン水

④ セン扱

⑤ セン都

問三 傍線部3「風化してしまいがちです」とはどういう意味か。最適なものをおの①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **3**。

① あとかたもなく消え去ってしまいやすい

② たちの悪いものにならなくなってしまいやすい

③ はっきりわからなくなってしまうやすい

④ 全く異なったものに化けてしまいやすい

⑤ 病んで弱いものになってしまうやすい

問四 空欄 A B に入る言葉の組み合わせとして、最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄番号は 4。

- ① A—相対 B—絶対
- ② A—否定 B—肯定
- ③ A—異端 B—正統
- ④ A—劣悪 B—優秀
- ⑤ A—異質 B—同一

問五 空欄 C に入る文として、最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 過去と現在の同一性を堅く信じている
- ② 過去に対する現在の優位を信じて疑わない
- ③ 伝統的な常識の存在を認めようとしない
- ④ これまで変化してきたことは今後も変化すると思つてゐる
- ⑤ 自分たちの常識は限定的なものではないと考へる

問六 傍線部 4「社会の中に埋め込まれてゐる」とはどのような意味か。最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解

答欄番号は 6。

- ① 幼い頃に歌つた童謡の記憶は、人々のなかに残され、容易には消えない
- ② 時間がたつと、童謡の価値は社会の中に埋もれてしまひ、見えにくくなる
- ③ 一つ一つの童謡のすばらしさは、変動する社会のなかに埋もれても変わらない
- ④ 童謡を愛する人々は、時代が變つても社会のなかに根を張り、生き續けていく
- ⑤ 童謡の理念や内容は、その時代の社会の文脈の中でとらえられるものである

問七 傍線部5「童謡とは何か」ではなく」とあるが、この文の作者は、なぜ「童謡とは何か」という問題設定を選ばないのか。最

適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7。

- ① 童謡の内実は、さまざまな主義主張や利害関係によって本来の姿を失ってきたから
- ② 童謡の本質を追究するためには、まずその変化について考える必要があるから
- ③ 童謡に限らず、近年の音楽研究のトレンドから外れるべきではないから
- ④ 童謡という概念そのものが、時代の移り変わりの中で変化してきたから
- ⑤ 童謡の作者は、まず「童謡とは何か」を考えて作ったわけではないから

問八 傍線部6「ショウソウ」を漢字に直せ。解答用紙(その2)を使用。

問九 傍線部7「往時」とは、ここではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

8。

- ① その資料の背後にはてしなく広がる激動の日々
- ② その資料が現在まで伝えられた時間の流れ
- ③ その資料から見通せる、さらに遠い過去
- ④ その資料が実際に作られ、息づいていた時期
- ⑤ その資料が生まれた時期へとさかのぼる心の動き

問十 この文章の内容に合っているものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 過去の童謡には、それを生み出した時代の文脈があるので、現代人の流儀で鑑賞するのは正しい態度とは言えない。
- ② 童謡というもののイメージがどう変わってきたかを考えることは、現代社会を深く考えるために役に立つはずである。
- ③ 埋もれてしまいがちな童謡の本質を未来に伝えていくためには、まず資料を収集・整理しておく必要がある。
- ④ 現代の私たちが未来の人たちから笑われないようにするためには、童謡だけではなく、音楽全般を学問的に研究すべきである。

⑤ 童謡について、今の常識にとらわれずに考えるためには、過去に童謡に関わってきた人々の生の声を聞かねばならない。

二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

* 鳥羽法皇の女房に、小大進といふ歌よみありけるが、待賢門院の御方に、御衣ぎよいひをかまね一重失せたりけるを負ひて、北野*にこもりて祭文書きてまもられけるに、三日といふに神水かみづをうちこぼしたりければ、檢非違使、「これに過ぎたる失やあるべき。いで給へ」と申しけるを、小大進泣く泣く申すやう、「おほやけの中のわたくしと申すはこれなり。今三日のいとまをたべ。それにしるしなくは、われを具していで給へ」と、うち泣きて申しければ、檢非違使もあはれにおぼえて、延べたりけるほどに、小大進、

思ひいづやなき名たつ身はうかりきとあら人神になりし昔を

とよみて、紅の薄様一重に書きて、御宝殿におしたりける夜、法皇の御夢に、よに氣高くやんごとなき翁の、東帯にて御枕に立ちて、「やや」とおどろかしまゐらせて、「われは北野右近の馬場の神にて侍り。めでたき事の侍る、御使給はりて、見せ候はん」と申し給ふとおほしめして、うちおどろかせ給ひて、「天神の見えさせ給へる、いかなる事のあるぞ。見て参れ」とて、「御厩おんくらの御馬に、北面の者を乗せて馳せよ」と仰せられければ、馳せ参りて見るに、小大進は雨しづくくと泣きて候ひけり。御前に紅の薄様に書きたる歌を見て、これをとりに参るほどに、いまだ参りも着かぬに、鳥羽殿の南殿の前に、かの失せたる御衣をかづきて、さきをば法師、あとをば敷島とて、待賢門院の雑仕なりけるものかづきて、獅子を舞ひて参りたりけるこそ、天神のあらたに歌にめでさせ給ひたりけると、目出たくたふとく侍れ。則ち小大進をば召しけれども、「かかるともんかうを負ふも、心わるき者におほしめすやうのあればこそ」とて、やがて仁和寺なる所にこもり居てけり。「力をもいれずして」と、『古今集』の序に書かれたるは、これらのたぐひにや侍らん。

(『古今著聞集』による)

(注)

* 鳥羽法皇…鳥羽天皇。堀河天皇の皇子。

* 待賢門院…鳥羽天皇の皇后。

* 北野…北野天満宮。祭神は菅原道真。

* 祭文…神に訴えることば。

* 神水…じんずい神前に供える水。

* もんかう…問拷。厳しく問い詰められること。

問一 傍線部1「負ひて」のここでの意味として最適なもの^①～^⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 10。

- ① 疑いを身に受けて。
- ② 検非違使に追いかけられて。
- ③ 見つけることができなくて。
- ④ 代金の支払いを命じられて。
- ⑤ 御衣を背負って。

問二 傍線部2「まもられける」のここでの意味として最適なもの^①～^⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

11。

- ① 決まりを遵守していた。
- ② 護衛されていた。
- ③ 機会を窺っていた。
- ④ 大切に世話をされていた。
- ⑤ 監視されていた。

問三 傍線部3「これに過ぎたる失やあるべき」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号

は 12。

- ① 三日を過ぎたというのはきつと失敗に違いない。
- ② 御衣を失う以上の罪はないに違いない。
- ③ 神水をこぼしてしまったのは失敗だろうか。
- ④ 御衣を盗んだのであろうか。きつとそうだろう。
- ⑤ 神水をこぼす以上のあやまちはないだろう。

問四 傍線部4「おほやけの中のわたくし」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

13。

- ① 社会においては私的な感情は無視すべきということ。
- ② 公的な事でも個人的な情けをはさむこと。
- ③ 朝廷の中にも個人がいて政治が行われていること。
- ④ 公平な中にも私的な事情を優先すべきこと。
- ⑤ 表向きには問題があっても個人的には問題としないこと。

問五 傍線部5「しるし」のここでの意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14。

- ① 効験
- ② 目印
- ③ 証拠
- ④ 記録
- ⑤ 前兆

問六 傍線部6「なき名たつ身はうかりき」とはここでは具体的にはどのようなことを言うか。最適なものを次の①～⑤から選
び、記号をマークせよ。解答欄番号は 15。

- ① 根も葉もない噂を立てられても合格できたこと。
- ② 人の噂で駄目になった恋の悲しさ。
- ③ 中傷によって左遷されてしまったつらさ。
- ④ 悪評も最後には名誉となること。
- ⑤ 何の名誉もないところから身を立てた苦しさ。

問七 傍線部7「よに気高くやんごとなき翁」が何者か、本文中で言い換えている箇所を漢字二文字で抜き出して書け。解答用紙
(その2)を使用。

問八 傍線部8「給はりて」は誰に対する敬意を表したのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番
号は 16。

- ① 小大進
- ② 待賢門院
- ③ 檢非違使
- ④ 法皇
- ⑤ 右近の馬場の神

問九 傍線部9「いまだ参りも着かぬ」の主語として最適なものを選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

17。

- ① 敷島
- ② 待賢門院
- ③ 小大進
- ④ 法皇
- ⑤ 北面の者

問十 傍線部10「やがて仁和寺なる所にこもり居てけり」とあるが、これはなぜか。その理由として最適なものを選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

18。

- ① 北野天満宮の神よりも仁和寺での仏道修行を選んだから。
- ② 待賢門院が自分のことを疎ましく思っていると判断したから。
- ③ 待賢門院に仕える心の悪い者達とは一緒に居たくなかったから。
- ④ こうした問題に関わってしまったのも自分の心が悪いためであり、仁和寺で心を清めようと思ったから。
- ⑤ 咎めをうけたのも、待賢門院の心根の悪さによるものであり、もう関わりたくなかったから。

問十一 傍線部11「古今集」の序の執筆者が他に著した作品を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

19。

- ① 方丈記
- ② 御堂関白記
- ③ 蜻蛉日記
- ④ 土佐日記
- ⑤ 更級日記

三 次の文は、農業技術史、食の思想史を研究してきた筆者が農業と戦争との関わりについて論じた本の一節であり、前段ではトラクターや化学肥料などがいかに農業のあり方を変えていったかを論じている。読んで、後の問に答えよ。

これまで述べてきた通り、第一次世界大戦は、馬も人間も、ぬかるみにはまりながら、ちぎれたり、腐¹ハイしたりして死んでいった、とても悲惨な戦争でした。それでも二十歳前後の若い兵士たちは、強力な武器によって肉体を木²端ミ塵に吹き飛ばされることを覚悟しながらも、戦うしかありません。しかし、それは怖いことです。機関銃が放つ銃弾の量は尋常ではありませんが、砲弾も降ってくるし、地雷もありましたし、一九一五年四月からは毒ガスも漂ってきます。そのうえ、たくさんの有刺鉄線が張り巡らされていますから、もう穴を掘って塹壕³に潜らざるをえません。そうした塹壕が、スイス国境から英仏海峡まで八〇〇キロメートルも連なる事態となりました。こうして、戦線が膠着⁴状態に陥ってしまいます。

* そんな状況のなかであるときイギリスとフランスの軍人や軍需産業が、のちに「キャタピラー（芋虫）」という商標がつけられる履帯^{りたひ}のついたアメリカ製トラクターを見て、これを使えば、前方を突破できるのではないかと思いついたのです。キャタピラーはトラクター開発当初から、各社によって開発されていたのでした。そしてそのアイデアが具体的に動き出した結果、開発されたのが戦車でした。

民生技術を軍事技術に転用することを「スピンドン」と言いますが、トラクターがスピンドンされて戦車に変身したわけです。
* 内燃機関があつて、キャタピラーがあつて、平らでない土地、すなわち不整地に強いのがトラクター。その開発技術は軍事技術としてこれ以上ないほど適したものでした。トラクターは A 「戦車の母」なのです。

第二次世界大戦では、戦車は大きな役割を果たします。連合国も枢軸国も、各国がさまざまな戦車を開発するようになりました。平時のトラクター工場は、戦争が泥沼化するなかで、つぎつぎに戦車工場になりました。

化学肥料の誕生もまた、戦争を大きく変えます。

化学肥料が、空中の窒素を固定してアンモニアを作ることで実現したのは、^{*}すでに述べた通りです。ここで合成されたアンモ

ニアは化学肥料を生産するうえで必須であるだけではありませんでした。実は火薬の生産にも必要です。これもスピノンですね。火薬の原料として硝酸が重要ですが、これはアンモニアから生成することができます。そこで、化学肥料の生産過程で作るアンモニアを火薬産業に利用しようという発想が生まれます。つまり、化学肥料産業が火薬産業にもなっていたのです。第一次大戦中、化学者のカール・ボッシュは、ドイツ政府から請われて、火薬の原料となる硝酸を生産する工場を稼働させました。日本でも、化学肥料で成長した日本窒素肥料も昭和電工もともに、火薬を大量に製造しました。日本窒素肥料は、その拠点として現在の朝鮮民主主義人民共和国の咸興市ハムギンに朝鮮窒素肥料を創業しました。あわせて、朝鮮で山を削り、膨大な水を落として電気を生産する水力発電所を建設しました。その電気ですべて化学肥料と火薬を大量生産して大陸進出に必要な資材を供給したわけです。水俣からも多くの人が朝鮮半島に渡っています。水俣の歴史は化学肥料製造の歴史であり、火薬製造の歴史でもあるのです。その延長上に水俣病があることを知らなければなりません。

そして、空気中の窒素を利用して火薬の原料が大量に作られるようになったことで、第一次世界大戦時の戦場では、機関銃がさらに多く使われるようになっていきます。一度に大量の弾丸を使って連射できるようになったためです。

ジョン・エリスという歴史研究者が執筆した『機関銃の社会史』というユニークな本があります。この武器は、アメリカ南北戦争で使用されて以来、日露戦争で華々しい成果を上げ、アフリカの植民地での住民たちの叛乱鎮圧に使われたあと、ヨーロッパにも投入されます。エリスは、こんなことを書いています。機関銃は「難解な戦術論を考える必要もないし、射程の違いを概算する必要もない」武器だ、と。機関銃の特性は、手当たり次第に撃てることです。

これはそれまでになかったことでした。狙撃の銃、つまりライフルだったら相手を確認して撃ちます。しかし、機関銃というのは英語でマシンガン、機械的に撃ち続ける道具。

A

「抽象」に向かって撃つわけです。

B

確認する必要はほ

とんどありません。撃つたら敵兵が何人かなぎ倒されていく。こういう殺傷の方法を得たことが、経済封鎖とともにわたしたち⁵の人を殺害する感覚を大きく変え、二十世紀以降の戦争の性質自体を変えていったのではないのでしょうか。この感覚は、絨毯爆撃、原爆、ヴェトナム戦争で枯葉剤を空から撒く作戦を経て、無人機による殺戮に至るまで、わたしたちの歴史の地下をドブ

川のように流れていると言えます。しかも、この感覚は、力のない側ではなく、力を圧倒的にもつ側にこそ宿ります。枯葉剤もモンサントが作った農薬でした。

二〇〇七年、イラクでアメリカ軍のヘリコプターがイラクの民間人を機関銃で殺害している映像記録が流出しました。このヘリコプターは、「A H-64アパッチ」と呼ばれる戦闘型ヘリコプターで、湾岸戦争で実戦投入されたものです。一機六〇億から七〇億円くらい。いまはボーイング社が生産しています。わたしはこの映像に戦慄を覚えました。ある兵士が、襲撃された怪我人を運んでいる民間人を見つけ、「怪我人を運んでいるぞ」と言うと、別の兵士が「でもやらせてくれよ」と応答して、銃撃後、「車ごと木っ端ミ塵だ、ハハハ」と笑っていたのです。明らかに民間人と確認できる人間たちに向かって空中から乱射することが、これほどまでに安易なことに心底驚いたのです。

人を殺すことは肯定できることはありません。しかし、本当に憎い人間を殺さなくてはならないと思うとき、その人を殺すと決めて、返り血を浴びて相手の生命を絶つというのであれば、相当の決意と心理的葛藤がそこにはあり、ある種の罪の重さが一生殺人者の心を縛るはずで、自分は C がはつきり残る。

しかし米軍ヘリの機関銃の掃射はそうではありません。人の命を奪ったという感覚をもたないまま、民間人を殺したあと愉快に笑うことさえできる。人を殺したかどうかを明確に意識することなく、簡単に人が殺せる。こうして二十世紀の戦争がほとんど歯止めのない悲惨なものへと変貌していったのだとわたしは考えています。

言うまでもなく、農業は、人間が生きていくためのかけがえのない産業です。そのために発達させてきたはずの技術が、しかし、実は人間を大量に殺す技術の基盤と重複している。トラクターの生産技術は戦車に、化学肥料の生産技術は火薬に、毒ガスの生産技術は農薬に転用されました。そのことは使用者である農業従事者たちも意識していない。責任者がすぐに浮ばない仕組みです。

これを「デュアルユース」と呼んでいます。民生技術と軍事技術の二重使用ですね。天文学者の池内了さんの『科学者と戦争』に

はこの問題が整理して書かれています。わたしは大学院の修士論文でトラクターと戦車、化学肥料と火薬のデュアルユースの問題を扱って以来、ずっと暮らしの仕組みと人間の感覚の問題として考えてきました。携帯電話も、インターネットも、電子レンジも、カーナビも、みんな軍事技術からのスピノフですから、わたしたちの暮らしはもはやこの仕組みから逃れようがないのです。しかも、この仕組みは、わたしたちは普段意識しなくても生きていきますから、それほど罪悪感が生じません。別にいいじゃないか、と言う人も多いでしょう。

わたしも、トラクターや化学肥料や農薬は戦争にも応用されるから使うべきではない、というような議論にはあまり意味がないと思っています。だからと言って、どんなにあげても戦争をしようとする人間がいるかぎり兵器はなくならないし、戦争なんて永遠に続くものだ、という物分かりのいい「現実主義者」の言い分には抵抗せねばなりません。二つの顔をもつ技術の世界に抗う方法を考えなくてはなりません、ここではまず、現実の厳しさを見つめ、仕組みの性質を知ることにならねばなりません。

わたしはこの問題を、これらの技術の性質から考えてみたいと思います。トラクターと戦車、化学肥料と火薬、農薬と毒ガス、原子力発電と核兵器。戦時利用であれ、平和利用であれ、どちらも、似た性質をもっています。どれもが、扱う対象に対して距離をとって、人間が長年培ってきた勘やそれに基づく即興的な対応力ではなく、マニュアルに依存して用いる道具です。トラクターに乗っていると、土壌中の湿気と微生物たちの活動に注意を払いくくなるように、戦車のなかに閉じこもっているかぎり、戦場で腐ハイした死者の臭いを嗅がなくてもすみます。農薬を大量に撒くことで死んでいく虫がどんな虫か、場合によっては益虫かもしれないことを考えなくてもいい。遠距離からガスを詰めた砲弾を発射すれば、毒ガスによって爛れた皮膚を見なくてもいい。原爆後の長崎で死んだ子どもを抱くお母さんの虚ろな顔を見なくてもいい。農薬によって畑の周囲の昆虫が激減し生態系が変わることも、農業用水や地下水が汚染されることも、人々の健康が著しく害されることも、特段気にする必要はありません。とりわけ化学肥料やそれが含まれる養液を用いる植物工場では、菌がつかないように厳重に衛生管理されていますから、病気になるレタスを見なくてもすみます。

(注)

*塹壕 〓 戦場で敵の弾から身を護るために掘った堀。

*履帯 〓 金属板を帯状に連結して車輪に巻いた走行装置。

*内燃機関 〓 燃料を燃焼させることによって生じる高温高圧のガスを直接作動させる機関。

*すでに述べた通りです。 〓 この文章の前の部分で化学肥料の生産について述べている。

*日本窒素肥料 〓 明治時代に設立された会社で、のちに水俣工場で使用した廃液を無処理で海に排出したため水俣病を引き起こした。

問一 傍線部1「腐ハイ」の片仮名部分を漢字にする場合に最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。 解答欄番号は

20。

① 糜

② 配

③ 敗

④ 排

⑤ 背

問二 傍線部2「ミ塵」の片仮名部分を漢字にする場合に最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。 解答欄番号は

21。

① 微

② 魅

③ 弥

④ 深

⑤ 徴

問三 傍線部3「しかし、それは怖いことです」とあるが、怖いことであるために戦場での闘い方はどう変わっていったか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 22。

- ① 銃弾の量を増やしていった。
- ② 毒ガスを使用するようになった。
- ③ 穴を掘って塹壕に潜るようになった。
- ④ トラクターを使用するようになった。
- ⑤ 戦車を開発するようになった。

問四 傍線部4「膠着状態」はここではどのような事態を意味するか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解

答欄番号は 23。

- ① 膠にかわのようにくっついて離れなくなった状態
- ② ねばねばと粘りついて動きにくくなった状態
- ③ ある状態が固定してほとんど動かなくなった状態
- ④ ある物がどこまでも長くのびていく状態
- ⑤ 柔軟性を失って破壊されやすくなった状態

問五 空欄 A が二か所ある。これに入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24。

- ① いわば
- ② にもかかわらず
- ③ くわえて
- ④ あるいは
- ⑤ いわゆる

問六 空欄

B

に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

25。

- ① 自分がどれだけの銃弾を打ち、その内のどれだけが無駄玉なのか
- ② そこにどんな人間がいるのか、自分が殺そうとしている相手が誰なのか
- ③ 機械が自動的に戦術を考えてくれるのだから、人間がその成否を
- ④ 戦闘行為の速度が各段に上がって、いつ終わるともしれない戦争の行方を
- ⑤ 兵士が機械の扱いに習熟しているか、適切に扱い得ているか

問七

傍線部「わたしたちの人を殺害する感覚を大きく変え、二十世紀以降の戦争の性質自体を変えていったのではないでしようか」について、どのように変わっていったと考えられるか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は

26。

- ① 人体をバラバラに破壊する破壊力の大きな武器が使われるようになり、人々は無残な死体に脅威を感じるようになっていった。
- ② 戦場の悲惨だけでなく、経済封鎖によって国民が飢えに苦しむことによって、敵への憎しみがこれまでにないほど強くなっていた。
- ③ 戦争の勝敗が最新の強力な武器を持っているかどうかにかかってきたため、戦争をする前に国の経済力が結果を決めるようになった。
- ④ 戦場で銃を撃つたり手りゅう弾を投げたりすることだけが戦争ではなく、銃後の工場で女性や子どもたちが砲弾や毒ガスを作ることでも重要な戦争の一部となった。
- ⑤ 狙った先にどういう人がいて、どういう苦しみの中で死んでいくのかを知らずにすむようになり、人を殺すという感覚のないまま大量殺害が可能になっていった。

問八 空欄

C

に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

- ① 誰の力も借りずに相手に勝ったという感覚
- ② 確かに復讐を遂げたという感覚
- ③ この手で人をあやめたという感覚
- ④ とりかえしのつかないことをしたという感覚
- ⑤ 生涯罪をつぐなわねばならないという感覚

問九

次の各文について、本文の内容に合っているものには①を、そうでないものには②を、それぞれマークせよ。

・技術の進展によって労働の苦痛が軽減され、特別の技能をもたない人や力の弱い人にも働く機会が与えられるようになる。 解答欄番号は 28。

・トラクターを始めとする農業の技術が身体を酷使する農業労働の苦痛から人間を解放したが、同様に戦車もまた戦場における生命の危険と苦痛を軽減する。 解答欄番号は 29。

・農業技術の導入によって人が土から遠ざかったように、戦争の技術によって自分が殺そうとしている人の苦しみ、悲しみを目の前に見る必要がなくなったが、同時にそれが深刻な感覚の鈍麻をもたらすことになる。 解答欄番号は 30。

・さまざまな技術が私たちの日常を便利で快適なものに変えていったが、その分だけ人間の生が退屈で味気ないものに変わっていく。 解答欄番号は 31。

・現代の戦争はもはやかつてのように大量の犠牲者を出す悲惨なものではなくなったため、逆に戦争を止めようとする意識が薄らいでいく。 解答欄番号は 32。

・対象から距離をとる技術が導入されたことで、その姿を具体的に思い描く必要がなくなった結果、人間の負うべき責任感が薄らいでいく。 解答欄番号は 33。

・自分が殺そうとしている敵の姿が抽象的なものとなり、その結果、社会全体が自国の運命を左右する戦争に対してさえ積極的にならうとしなくなった。 解答欄番号は 34。

以下の問題は、日本文学科受験者のみ解答すること。

四 次の文章は『とほすがたり』の一節である。作者である女性はかつて後深草院の寵愛を得たが、その後院の御所を退去することとなり、諸国を旅している。これを読んで後の問に答えよ。

軒端の梅に木伝ふ鶯の音におどろかされても、相見返らざる恨み忍びがたく、昔を思ふ涙は、改まる年とも言はず、ふるものなり。

如月の十日余りのほどにや、善光寺へ思ひ立つ。碓氷坂、木曾の懸路の丸木橋、げに踏み見るからに危ふげなる渡りなり。道のほどの名所なども、やすらひ見たりしかども、大勢に引き具せられて事しげかりしかば、何となく過ぎにしを、思ひのほかにむつかしければ、宿願の心ざしありて、しばし籠るべきよしを言ひつつ、帰さにはとどまりぬ。一人とどめ置く事を心苦しがり言ひしかば、「中有の旅の空には、たれか伴うべき。生ぜし折も一人来たりき。去りて行かん折もまたしかなり。相会ふ者は必ず別れ、生ずる者は死に必ず至る。桃花装ひいみじといへども、終には」に帰る。紅葉は千人の色を尽くして盛りありといへども、

B

を待ちて秋の色久しからず。名残を慕ふは一旦の情なり」など言ひて、一人とどまりぬ。

所のさまは、眺望などはなけれども、生身の如来と聞きまらすれば、頼もしくおぼえて、百万遍の念仏など申して明かし暮らすほどに、高岡の石見の入道といふ者あり。いと情けある者にて、歌常に詠み、管絃などして遊ぶとて、かたへなる修行者、尼に誘はれてまかりたりしかば、まことに故ある住まひ、辺土分際には過ぎたり。彼といひ是といひて、慰む便りもあれば、秋まではとどまりぬ。

八月の初めつ方にもなりぬれば、武蔵野の秋の景色ゆかしさにこそ、今までこれらにも侍りつれと思ひて、武蔵国へ帰りて、浅草と申す堂あり。十一面観音のおはします。靈仏と申すもゆかしくて参るに、野の中をはるばると分け行くに、萩、女郎花、萩、薄よりほかは、またまじる物もなく、これが高さは馬に乗りたる男の見えぬほどなれば、推し量るべし。三日にや、分け行くけども、⁶尽きもせず。ちとそばへ行く道にこそ宿などもあれ、はるばる一通りは、来し方行く末野原なり。

観音堂は、ちと引き上がりて、それも木などはなき原の中におはしますに、まめやかに「草の原より出づる月影」と思ひ出づれば

ば、今宵は十五夜なりけり。雲の上の御遊びも思ひやらるるに、御形見の御衣は、如法経の折、御布施に大菩薩に参らせて、⁸「今此に在り」とはおほえねども、鳳闕の雲の上忘れ奉らざれば、余香をば拝する心ざしも、⁹深きに変はらずぞおほえし。草の原より出でし月影、更け行くままに澄みのほり、葉末に結ぶ白露は

C

かと思ゆる心地して、

雲の上に見しもなかなか月ゆゑの身の思ひ出は今宵なりけり

涙に浮かぶ心地して、

¹⁰くまもなき月になり行くながめにもなほ面影は忘れやはする

明けぬれば、さのみ野原に宿るべきならねば、帰りぬ。

(注)

* 善光寺…信濃国(現長野)北部にある寺。

* 「草の原より出づる月影」…「行く末は空もひとつの武蔵野に草の原より出づる月影」(新古今和歌集・秋上・藤原良経)の引用。

* 御形見の御衣…かつて後深草院から下賜された衣。

* 大菩薩…八幡大菩薩。ここでは石清水八幡宮を指す。

問一 傍線部1「ふるものなり」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **35**。

- ① 涙がすっかり古びてしまった過去のことだと強調する。
- ② 軒端が「古る」と鶯の声が「降る」を掛ける。
- ③ 年月を「経る」で耐えがたい恨みを強調する。
- ④ 戻れない昔へと「経る」と梅の花が「降る」を掛ける。
- ⑤ 涙が「降る」と年が「古る」を掛ける。

問二 傍線部2「にしを」の文法上の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **36**。

- ① 完了の助動詞「ぬ」の連体形・サ変動詞の連用形「し」・間投助詞「を」
- ② 名詞「にし」・格助詞「を」
- ③ 完了の助動詞「ぬ」の連用形・過去の助動詞「き」の連体形・接続助詞「を」
- ④ 格助詞「に」・過去の助動詞「き」の連体形・格助詞「を」
- ⑤ 強意の助動詞「ぬ」の連用形・副助詞「し」・間投助詞「を」

問三 傍線部3「中有の旅の空には、たれか伴うべき」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **37**。

- ① 中途半端な旅の空しさを味わうには誰もお供がない方がよい。
- ② 孤独な旅の空なので、できれば誰かを連れて行きたい。
- ③ 死後の旅には誰も伴うことはできない。
- ④ 中陰までの甲いの旅なので、空にはきつと何も無い。
- ⑤ 途中で休みのある旅の空には誰も連れては行けない。

問四 空欄 A B に入る語として適当な組み合わせを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号

は 38。

- ① A | 空 B | 地
- ② A | 根 B | 風
- ③ A | 夏 B | 冬
- ④ A | 生 B | 死
- ⑤ A | 地 B | 夕

問五 傍線部4「彼といひ是といひて、慰む便りもあれば、秋まではとどまりぬ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 39。

- ① あちこちから慰めの手紙がとどいたので、秋まで入道のところに留まることは止めた。
- ② 方々の慰めとなる御縁があったので、秋まであちこちに留まった。
- ③ 修行者や尼が様々な方法で慰めてくれたので、秋まで彼らのところに留まってしまった。
- ④ 和歌や管絃などで慰められる機会があったので、秋まで善光寺に留まることはしなかった。
- ⑤ あれこれと心が慰められることがあるので、秋まで入道邸に留まった。

問六 傍線部5「八月」の陰暦の称を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 40。

- ① 神無月
- ② 長月
- ③ 陸月
- ④ 葉月
- ⑤ 文月

問七 傍線部6「尽きもせず」とあるが、何が「尽きもせず」なのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答

欄番号は **41**。

① 武蔵野の野原

② 観音堂

③ 信濃国の人々への名残

④ 萩、女郎花、萩、薄の高さ

⑤ 十五夜の月

問八 傍線部7「雲の上の御遊び」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **42**。

① 院の御所での管絃の会。

② 雲の上の神々の音楽。

③ 月が雲の上をゆれ動く様子。

④ 殿上人達との戯れの日々。

⑤ 雲が上空をさまよう様。

問九 傍線部8「今此に在り」は菅原道真が醍醐天皇に近侍した日々を太宰府で懐古して作した次の詩句を踏まえたものである。

去年今夜侍清涼

秋思詩篇独断腸ヲ

恩賜御衣今在此ニ

捧持毎日拜余香ヲ

右の波線部「去年今夜侍清涼」に返り点をつけよ。解答用紙(その2)を使用。

問十 傍線部9「深きに変はらずぞおぼえし」とあるが、ここでの意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 43。

- ① 醍醐天皇に対する思いの深さは自分も変わらないものだと感じた。
- ② 下賜された衣を大菩薩に奉納するほどに自分の仏道への思いは不変であると思った。
- ③ 武蔵野の萩や女郎花などの草深さはいつまでたつても変わることがないと感じた。
- ④ 醍醐天皇に対する道真の思いと、後深草院への自分の思いの深さは同じようなものだと感じた。
- ⑤ 醍醐天皇への道真の恨みは、後深草院への自分の恨みと同様であると思った。

問十一 空欄 C に入る語として適当なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 44。

- ① 月
- ② 涙
- ③ 玉
- ④ 花
- ⑤ 雲

問十二 傍線部10「くまもなき月になり行くながめにもなほ面影は忘れやはする」の和歌の中で用いられている縁語を過不足なく抜き出して書け。解答用紙(その2)を使用。

